

「ヘルペス・メニエール病手記」匿名希望 48 歳

2014 年 8 月 24 日

「あれ？耳が聞こえない！？」平成 26 年 4 月上旬のある日、そう感じたのが、メニエール病との闘いの始まりでした。飛行機に乗った時に気圧の変化のせいで耳が塞がったような感じ、耳に水でも入っているような感じでした（私は、ポーン感と呼んでいました）。最初は、近所の耳鼻科に行きました。診断は、突発性難聴。数日分のステロイド剤を 2 回ほど処方され、一時は、ポーン感がほとんど消え、完治したと思いました。しかし、その数日後、またポーン感が

戻ってきたのです。このときは、視覚にも違和感がありました。目眩^{めまい}だけでなく、まるで周りの世界が自分に向かってグワーツと襲ってくるような感覚がありました。まともに立っていただけません。何とか立ち上がっても、後ろ側に引っ張られるような感じがします。仕事も休まざるを得ませんでした。友人から、メニエール病ではないか？と言われ、専門の耳鼻科を紹介してもらいました。その耳鼻科では、目眩の細かな検査を受け、メニエール病と診断され、ステロイドとイソバイドを処方されました。メニエール病のお決まりメニューは、1 ヶ月ほど続けました。確かにステロイドを服用している間は、症状が軽くなった気がしましたが、いつまでもポーン感、グワーツ感、引っ張られ感は消えません。仕事にもずっと復帰できずにいました。この専門医は、メニエール病について原因は分からない、と言いつつ、とにかく症状を抑えるために定番メニューを服用するしかないと言います。しかし、私は、とりあえず症状を抑えて、いつ再発するか分からない状態で病気とつきあっていくつもりは全くなく、この病気を、「完全に治したい」と思っていました。病気の原因が分からないというのもおかしいと思っていました。

そんなとき、インターネットで松本医院を知ったのです。松本先生のホームページには、はっきりとヘルペスウイルスが原因だと書いてありました。それが医学的に正しいのかどうかは私には分かりません。ただ、原因をはっきりとさせ、それに応じた治療を行うという方針は、とても納得がいくものでした。だから、名古屋からはるばる高槻まで、診察を受けに行くことにしたのです。松本先生の診察を受けたのは、6 月上旬のことです。先生からは、改めてヘルペスが病気の原因だということを教えていただきました。そして、「病気を治すのは、自分！」ということを何度も何度もすり込まれました。後日、送られてきた血液検査の結果を見たところ、確かにヘルペスの数値が、基準値の 20 倍近くになっていたのです。この病気は、ヘルペスが原因という先生の話にとても説得力を感じました。先生から処方されたのは、食前用、食後用の 2 種類の

漢方薬と、お灸です。漢方薬は、30分かけて煎じつめなくてははいけません。正直、とても面倒です。これだけ手間をかけても、全くおいしくありません。しかも、このまずい薬を耐えて飲み続けても、目に見えて症状が良くなるわけではなく、ほとんど効いている感じがしません。

6月下旬頃になり、漢方薬の効き目に半信半疑な気持ちと、この先、完治するまで、どれだけ時間がかかるのだろうかという不安が入り混じってきた頃、お灸を始めました。診察のときにお灸もするように指導されていたのですが、なかなか面倒で、ずっとやらずにいたのです。お灸をするにも時間がかかりますから、多くのツボにすることはできません。私は、脚のすねのところと、足の裏またはふくらはぎに絞ってお灸することにしました。これなら片足2カ所、左右で合計4カ所なので、風呂あがりにテレビを見ながらでもできます。お灸が効いたのかどうかはわかりませんが、この頃から、徐々に症状の改善が見られました。ポーン感は相変わらずでしたが、グワーっと感、引っ張られ感は随分と軽くなりました。

7月に入ると、ポーン感も軽くなりました。仕事には、まだ復帰できませんでしたが、日常の家事などは、普通に過ごせるようになってきました。そうは言っても、症状は不安定で、良い日があるかと思うと、悪い日があり、という感じの繰り返しでした。でも、このような波がありながらも、全体的には症状は改善していました。

そして、ついに8月に仕事に復帰することができました。仕事に復帰した当初は、とても疲れ、また症状が悪化するのではないかという不安もありましたが、徐々に体も慣れ、今は、ほぼ普通に勤務できるまでに回復しています。まだ、疲労が重なると、耳に違和感が出ることはありますが、少し休めば回復します。このまま体力が回復していけば、耳の違和感もなくなり完治すると信じています。

松本先生には、とてもお世話になりました。あの漢方薬をまた飲みたいとは思いませんが、お灸だけは今でも続けています。